



聖書学と信仰者

信仰者は批判的聖書学とどう向き合うべきか

マーク・ツヴィ・ブレットラー／ダニエル・J・ハリントン

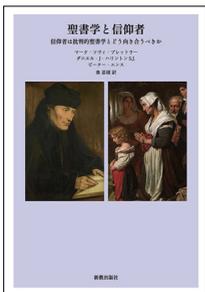
ピーター・エンス「共著」、魯恩碩「訳」

◆A5判・219頁・定価2970円

ユダヤ教、カトリック、プロテスタント
3人の著名な聖書学者による白熱討議！

聖書を神の靈感を受けて書かれた聖なる文書として読むか？
それとも人間の手によって書かれた歴史のおよび文学的テキスト
トとして読むか？ この二者択一を超えて、旧約聖書を批判的
かつ信仰的な観点から読むことは可能だという確信の下、それ
をどのように遂行できるのか、または遂行すべきなのかを、古

代以来の聖書解釈の歴史から最新の積義
理論までを参照しつつ考察する。



【目次から】

- 序 論——ヘブライ語聖書（旧約聖書）の歴史批判的読解について
- 1 私の聖書——あるユダヤ人の視点（マーク・ツヴィ・ブレットラー）
ダニエル・J・ハリントン S.J.の応答／ピーター・エンスの応答
- 2 聖書を批判的かつ宗教的に読むために——カトリックの視点（ダニエル・J・ハリントン S.J.）
ピーター・エンスの応答／マーク・ツヴィ・ブレットラーの応答
- 3 プロテスタントイズムと聖書批判——困難な対話への一つの視点（ピーター・エンス）
マーク・ツヴィ・ブレットラーの応答／ダニエル・J・ハリントン S.J.の応答

10月11日発売

● 8 月刊行

ロゴセラピー

人間への限りない畏敬に基づく心理療法

エリーザベト・ルーカス著／草野智洋・徳永繁子訳 ◆ A5判・定価 3300 円

基礎概念を説明したのち、「生きる意味」の発見を支援する実践技法を懇切に解説。医療と心理のみならず、教師や宗教者など人と深く関わる全ての者にとって豊かな示唆に富む。著者は فرانクル の高弟。



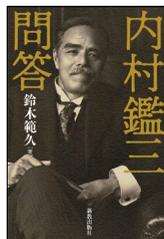
● 7 月刊行

内村鑑三問答

鈴木範久著

◆四六判・定価 2970 円

70 年にわたり内村と向き合い続け、記念碑的な『内村鑑三日録』全 12 巻を世に問うなど、終始内村研究を主導してきた著者が、「なぜ最初の結婚は破綻したのか」「新島襄から離れたわけは」「天皇をどうみたか」など、更なる解明を要する 24 の「謎」を取り上げ、その人格と思想に迫る。



● 5 月刊行

キア神学入門

その複数の声を聴く

クリス・グリノフ著／薄井良子訳

◆四六判・定価 2970 円

本書は、キアとキリスト教に関する基本的な概念を平易に解説すると同時に、これら複数の神学的な冒険の歴史と最前線の議論を紹介する。多くの人の疑問に答え、新たな理解と更なる学びへと促す。



● 5 月刊行

滝沢克己の現在

没後 40 年記念論集

滝沢克己協会編

◆四六判・定価 3740 円

滝沢が最晩年に欧州の神学界に問おうとした「純粋神人学」は、没後 40 年を経て今なお読む者を挑発し続ける。それに応答した 14 名の渾身の論考を収録する。



デイトリヒ・ボンヘッファー著／宮田光雄監訳

倫理 DBW版・新訳

ボンヘッファーがライフワークとして取り組み、ナチによる逮捕と刑死によってついに未完に終わった倫理学。長らく森野善右衛門訳『現代キリスト教倫理』として読み継がれてきたが、ここに新版ボンヘッファー全集第6巻（DBW6）に基づく全く新たな訳が完成。ナチの監視下に慌ただしく書き継がれた草稿を綿密な判読と徹底的な校閲により再構成し、膨大な脚注を付した本書は、著者の構想を余すところなく明かにし、キリスト教倫理の可能性を鮮やかに指し示す。

四六判・予価9900円

イルゼ・テート著／岡野彩子訳

善き力 ボンヘッファーを描き出す12章

著者は、夫H・E・テートと共に新版ボンヘッファー全集（DBW）の編集に絶大な貢献を果たし、ボンヘッファーのテキストに誰よりも通暁する碩学である。本書は、著者が2000年代初頭に、主として一般市民を対象に語った講演を収録する。様々なテーマを切り口に、ボンヘッファーの信仰世界の豊かさが生き生きと描き出される。

四六判・定価3960円

パム・ロイ&モイラ・フンメル編著／赤坂桃子訳

ロゴセラピーのレッスズ 21の知恵「仮題」

ヴィクトール・フランクルの文章から21の短い章句を引用し、それに関連する目的、幸福、自由、自己超越、責任、ユーモアといった21のテーマを考察する。ロゴセラピーの考え方を通して自己発見のための手がかりをつかむガイドブック。

B6判・予価1500円

● 9月に出た本と雑誌

現代エキュメニカル運動史

ジェンダー正義の視点から読み解く

藤原佐和子著



女性の按手の是非やセクシュアリティに関わる問題群は90年代以降の「エキュメニカルの冬」をもたらしたとされるが、そこではいかなる論争と実践が展開されてきたのか。多くの取り組みと議論を一次資料を通して丹念に辿る。ジェンダー正義の視点から綴られた、これまでにない新たなエキュメニズムの歴史！

◆A5判・定価3740円

福音と世界

◆定価660円

10月号 特集Ⅱ 反政治

— 国家と権力の論理から離れて

寄稿者…王寺賢太 栗原康 田崎英明

飯村祥之、川上幸之介、彫真悟
モルトマン追悼……岡田仁

連載 インタビューシリーズ 女たちの闘い、田島卓、今高義也、長尾優、真下弥生、山崎ランサム和彦

編集部から

8月に刊行したE・ルーカス著『ロゴセラピー』が好調です。NHK・eテレ「こころの時代」ヴィクトール・フランクルが6月から9月にかけて6回放映された影響が大きいでしょう。同書は体系的で大部な本ですが、フランクルが創始した心理療法を更に深く理解したいという方が手に取って下っているようです。同番組で講師を務めた勝田茅生さんの『ロゴセラピーと物語』、またフランクル自身による『ロゴセラピーのエッセンス』も一緒に読まれています。ちなみに、本冊子で紹介しているように、フランクルの21の短い文章を題材に自己発見の手がかりを提供する『ロゴセラピーのレッスンズ』（仮題）も、クリスマスマスに間に合わせるべく準備中です。人生には意味があること、その意味は人から与えてもらうものではなく自分が見つけるもので、そこには自己超越という道がありますということなどを、平易な言葉で教えてくれます。キリスト教会もまた、ロゴセラピー的な語り口から学べるものがあるのではないのでしょうか。（小林）

販売部から

『信じることをためらっている人へ』（岡

野昌雄著）でキリスト教に関する初歩的な事柄に関して取り上げられています。私自身、この書籍を読み進めることで特に「祈り」に関して考えを改める機会を得られました。本書で祈りに関して「簡単に言えば、キリスト教で言う祈りとは、神と会話することを意味します。神と自分が何らかの形でコミュニケーションしていること、関わっていることが祈りの基本であり、また定義でもありません。ですから、そこには願いのみならず、神に対する讚美や感謝や問いかけや訴え、そして時には「なぜですか!？」という怒りまでも含まれているのです」（95頁）。祈りに関する正確な説明と思われまふ。祈りは呼吸に喩えることができると思えます。私たちは呼吸をしなければ死んでしまいます。それと同じように祈りを止めれば、私たちの内なる人は瀕死状態に陥るでしょう。私は常に神に親しみを覚えるために祈っています。例えば、美味しい食事をしてる時に幸せだと感謝する瞬間、辛い出来事にあつて助けてほしいと反射的に願う瞬間、また不条理に直面して怒りを覚える瞬間等。もしキリスト教に関して今更人には聞けない事柄があれば、是非この書籍を読み進めて欲しいです。（坂谷内）

福音と世界

2024年
11

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

特集・現代日本において宗教哲学を
構想する

「宗教哲学」を語る「言葉」を求めて 杉村靖彦

現代日本と解釈学的宗教哲学 岡田勇督

政治と宗教の交差 善をめぐる哲学と神学 鬼頭葉子

「コナ検証」としての偶像学

——神学と宗教哲学との間で考える 濱崎雅孝

「大衆社会」において個人として倫理的に
生きる キルケゴールとポストモダンの

大衆論 谷塚 巖

必然性と知性——シモーヌ・ウナイユの知性論
から見た現代 脇坂真弥

【書評】マユエル・ヤン『バビロンの路上で』

榎本 空

【リレー連載】『荊冠の神学』を読み直す1

小柳伸顕

【好評連載】

◆ 女たちの闘い 声をつむぐ、織りなす6 吉谷かおるさん

◆ 証言としての旧約聖書 7 田島 卓

◆ 八木重吉の聖書 16 今高義也

◆ 私は告白する、私の神を 20 長尾 優

◆ 「日本的キリスト教」を読む 31 山口陽一

◆ 新約釈義 ルカ福音書 35 山崎ランサム和彦